関西学院 千里国際中等部・高等部

新シリーズ「Authentic Opportunities 本物に触れる教育」 第 10 回

千里国際の進路

校長 眞砂 和典

関西学院との合併によって私達の学校にどのような変化が起こっているのかについて今回は特に進路の話を中心に書いてみたい。 そう書くと関西学院大学への内部推薦枠とか他大学の指定校推薦枠がどうなるかということに終始しそうだが、 それ程狭い話にはしたくない。

千里国際が大切にしているのは多様性だ。 大阪インターナショナルスクールと一緒に教育を行うこのキャンパスでは帰国生徒と一般生徒、 そして外国人生徒がほぼ三分の一ずつの割合で学んでいる。 授業の一部（音楽、 美術、 体育、 英語、 社会、 コンピュータ）をインターナショナルスクールが行っている内容で共有している。 もちろんこれらの授業で使う言語は英語だ。 また、 英語の対称として千里国際の国語には大阪インターの中の日英バイリンガルの生徒が入ってくる。 更に、 学校行事、 クラブ活動と生徒会などの課外活動はほぼ一緒に行っている。 このように様々な文化背景を持った生徒や教員が世界各地から集まってくる学校ではお互いがぶつかり合い、 違いを認め合うことが人間関係の基本になる。 これは入学試験でふるいにかけられ、 同じような生徒が集まってくる一般的な日本の学校とは大きく異なる。 似た者同士ならば黙っていても分かり合えて居心地がいいだろう。 しかし、 私達の学校では異なる他者を受け入れて、 そこから学ぶためにコミュニケーション能力を駆使することが重要だ。 それによって生徒達は大きく成長していく。

このような環境で学んだ生徒達の進路が多様性を持つのは自然なことだ。 海外に進学する者、 国公立大学に進む者がそれぞれ 10%くらいずついる。 カナダのマウントアリソン大学から 3 人の推薦枠をいただき、 他の海外の大学からも申し出がある日本の高校はあまりないだろう。 更に 20%くらいは関東の私立大学に進学している。 詳しくは本校のホームページを見てもらいたい。 合格者数ではなく実際に進学した生徒の学部や学科まで「多彩な進路」として載せている。 就きたい仕事を見つける生徒もいるし、 そのために専門学校へ進む者もいる。 有名大学というよりも、 生徒がそれぞれに自分の進むべき道を本校在学中に見つけ出して多様性のある進路を選び取ることを誇りに思っている。 そのために自分の将来を考える機会をできるだけ多く与えていきたい。 その点でも関西学院との合併は大きなメリットをもたらしてくれている。

12 月 18 日の午後に関西学院大学主催の「国際機関で働く」というキャリアフォーラムが開かれた。 第一部は国連開発計画（UNDP）、 国際協力機構（JICA）、 国際的な NPO の代表などの方々の講演やパネルディスカッションと具体的な採用システムの紹介があった。 国際機関で働くためにはどのような心構えで勉強するべきかという話はコミュニケーション能力というような点で本校が目指していることと共通する部分が多く語られた。 第二部は上記の団体に加えて国際ボランティア計画（UNV）、 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、 世界銀行グループ（WBG）、 アジア開発銀行（ADB）、 外務省国際機関人事センターが各教室に分かれてワークショップを開き、 30 分ずつ参加者が回っていくように企画されていた。

日もとっぷりと暮れて関西学院上ヶ原キャンパスの時計台前の 2 本の大木にイルミネーションが輝く頃まで熱気を帯びたフォーラムは続いた。 内向き志向といわれる昨今の日本の大学生だが、 ここではどうすれば世界の人々のために貢献できるのかと真剣に聞き入り、 質問を重ねる姿がとても頼もしかった。 また、 就職活動が前倒しになり、 3 年生くらいから企業回りで忙しくなるという最近の日本国内の就職事情に対して、 国際機関への就職は正反対で実力主義が明確だった。 学部での専